

12月になりました

エっつ！本当ですか？って聞きたくなりませんか？

ところで、平成が31年4月末で終わるそうですね。マスコミ報道で知りました。

昭和30年初期の人間としては3元号を生きる事になりそうです。

私の父は大正生まれ。東京オリンピックを2回確認、なおかつ4元号を生きる事が可能になりそうな状況です。おもわず「それまで頑張れ！」と声援を送りたくりました。

平成の始まりは「喪に服します」という感じだったので、少し暗い始まりと言う印象でした。

今度は生前変更という事ですので「おめでとう！新元号のはじまりだよ」となるのでしょうか？

平成31年5月1日はどんな気分でむかえるのか？

その時、父とどういう会話をするのか？想像している12月の始まりです。

普段意識しなくても「時が過ぎていっていると言う事を実感する時」ってありますよね
当団体も12月で一区切り。その一区切りの中でも重要なイベントが秋の文化祭とバザーです。

毎年第何回目とその度にお写真をUPしていますが、今年の文化祭は特別な回でした。

とういのは13回年間続けてきた文化祭で皆勤の西宮中学校と高井戸第二小学校に1年遅れ
で協力頂いていた、立教女学院短期大学フラダンス部の出演が今年をもって終了したからです。

母体である立教女学院短期大学が閉校となるための致し方ない終了です。フラガールズの演技は素晴らしい講師指導もあり、その技術の高さに加え、創立理念に基づく「奉仕と友愛の心をもって踊る」という信念に裏付けされたものでありました。それが観る者すべてに「本当に美しい」と感じさせました。その演技を観る事ができないと思うと非常に残念ではありますが、今までの感謝もこめて、これからの彼女達の人生が幸多かれと心から祈っている私達です。

そんな13回目の文化祭ではありましたが、

今年の招待出演者はちょっと変わり種。期待をこめてその演奏を待ちました。

少し風変わりな「イデタチ」で現われた二人。目隠しをして弾く三味線奏者と目隠しをしなくても弦が見えないギタリスト。その演奏は津軽三味線の様な激しい音に合わせギターをパーカッションにしたり、アフリカのサバンナをイメージさせる悠然としたギター音に三味線音が優しく添えられたりと、とても二人だけで演奏しているとは思えないバリエーション豊かな演目でした。

目隠しをし視界閉ざした一人、眼をあけていても視力がない状態の一人、その二人の演奏に音楽的にだけでなく、その心が一体化し通じ合い、信じあう姿勢にも感動させられました。

「障害者か？障がい者か？」・・・表記の仕方やくくり方論争などを卓越した所で、「その人自身」と互いに向き合い、同時代に出会えた奇跡に感謝し、通じあえれば・・・とこの経験で再認識しました。

何事も始まりがあれば終わりがありますが、その終わる瞬間までそれまでの過程を存分楽しむ心を持ち続けていければ「高齢である事も一つ的人格要素」になるのでは？と思う事があります。

戦争の惨劇を生き延び、4元号を生き様としている父と東京オリンピック2回目を迎える私
長期に渡る生存が社会の不安要因にならない様、心して新しい年を迎えねば、と思っています。

12月をもって平成29年は終わりますが・・・平成30年が始まります

今年最後の雑感にお付き合い頂いた皆様に・・・おまけをつけさせて頂きました。

愛のフラダンスとギターと三味線のコラボ音を想像しながらご覧下さい。ではまた来年！